自　己　評　価　票

【自己評価の意義・目的】

○　自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
○　サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
○　この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

		項目数
Ⅰ	理念に基づく運営	22
	1　理念の共有	3
	2　地域との支えあい	3
	3　理念を実践するための制度の理解と活用	5
	4　理念を実践するための体制	7
	5　人材の育成と支援	4
Ⅱ	安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
	2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
Ⅲ	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
	1 一人ひとりの把握	3
	2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
	3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
	4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
Ⅳ	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
	1 その人らしい暮らしの支援	30
	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ	サービスの成果に関する項目	13
	合計	100

【自己評価の実施方法】

○　運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
○　「評価項目」ごとに評価をしてください
○　その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
○　少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
○　優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
○　改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
○　利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
○　評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

記入年月日	平成　20　年　11　月　10　日
法　人　名	㈱　オーナーズ
代表者名	林　芳美
事業所番号	２７７２２０２０１２
サービスの種　類	指定介護予防認知症対応型共同生活介護 医療連携体制加算
事業所の名　称	グループホーム　ジョイフル小路
記入者名	**金谷　英子**
所　在　地	**大阪市生野区小路東４－５－16**
電話番号	０６－６７５１－１４１９
ＦＡＸ番号	０６－６７５１－１４２０

自 己 評 価 票

（ ：：：

（ ⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
11	○　虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修で学んだ事を職員会議で話し合い、普段からの言動に注意を払い、各自、意識を持つように努めている。		
4　理念を実践するための体制				
12	○　契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	契約時･解約時には、契約書･重要事項・の内容を利用者･ご家族に説明し、不安な所や疑問がない事を、お互い理解・納得してから契約･解約に至る。		
13	○　運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が日々の生活の中で、不満・苦情を、表現出来る為には、職員がコミニュケーションを多く取り、何を訴え・欲しているかを探り、職員全体で会議で話し合い、反映するようにしている。		
14	○　家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の中での必要な物品・健康状態・他の医療機関に受診する時などは、ご家族に連絡し、費用などは施設で立替えて、利用料と一緒に請求している。後は、ご家族来訪時に、施設・利用者の現状を報告している。		
15	○　運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に意見箱を設置し、ご家族の不満・苦情に対処している。他にも来訪時にホームに対する意見・不満･苦情の有無を管理者・職員が確かめ、話し合い、運営に反映させている。		
16	○　運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１度の全体会議にオーナーも交え職員と話す機会を持つ。職員に対し、慰労を兼ねて焼肉・花見などの機会を設け、各職員の意見をさりげなく聞き出し、職員やホームに反映させている。		
17	○　柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	職員同士で、希望の休日をノートに書き入れた後、勤務表を作成している。急に都合が悪くなった場合には、お互いに連絡・勤務の調整をしている。		
18	○　職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は、職員の働く上での、健康状態・家庭の事情・職場・職員同士の不満など相談しよい関係を築くように心がけ、コミニュケーションを多く持ち、お互いの信頼関係を深め、異動・辞職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者にダメージのないように配慮する。		
5　人材の育成と支援				
19	○　職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、各職員が研修を受けられるように、資料などを揃え、職員に進めている。研修にかかる全費用・研修手当てなどを支給し、職員のスキルアップに全力でバックアップしている。		
20	○　同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設職員や研修などで知りあった人達と、お互いの施設に交換見学・又勉強会などにも参加し、参考になる資料などを当施設に持ち帰り、職員全員で話し合い、サービスの向上を計っていく努力をしている。		

（ ⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
21	○　職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる	運営者は施設訪問時、職員に笑顔で手土産を持って来訪し、職員一人ひとりに労いの言葉をかけ、顔色や体調に変化がないか気をつけている。食事会も適宜に行って交流を図っている		
22	○　向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況を知り、努力している事を評価している。職員一人ひとりを理解・信頼し、それを表現する事で、職員との信頼関係が深まり、各自が向上心を持ち続けれるように努めている。		

Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1　相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○　初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	困った事･不安な事・本人の主訴などを傾聴し、本人が納得いくまで何度も訪問して、信頼関係が生まれるように努めている。		
24	○　初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめ　る努力をしている。	利用者・ご家族の主訴を傾聴・当施設に見学に来て頂き、話し合う場を持ち、現状の不安・困った事など、気軽に相談してもらえるように努めている。		
25	○　初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何から支援する事が優先か、他のサービス利用も必要なのかは、相談の時点で決めておき、違いがあるなら、それに対応できるように努めている。		
26	○　馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	本人がホームに馴染めるようにコミニュケーション・非言語的コミニュケーションを常に用いながら、職員や他の利用者・ご家族の交流などで、徐々にホームに馴染んでもらえるように努めている。		

2　新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○　本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護しているのではなく、お世話をさせて頂いている事を念頭におき、利用者の生活暦で知り得た事を学びながら、共に歩み・支えあい、良い関係を継続させて行く。		
28	○　本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設･職員・利用者にとって、ご家族の存在は必要不可欠である。施設の行事などに参加して頂き、喜怒哀楽を分かち合い、お互いに支えあって行く事で信頼関係が築ける。		
29	○　本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族との生活暦の中での出来事や、本人・ご家族が抱えている問題などを知る機会を持ち、理解し合い支援している		
30	○　馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の案内状・年賀・暑中見舞いなどを本人に書いて頂き、関係が途切れないように支援している。		

（ ⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
31	○　利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアーに集い、ゲーム・カラオケなどで一緒に楽しみながら、利用者同士の関わりを多く持つように努めている。		
32	○　関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約の終了には現状では無い事だが、もしそういう事態になり、継続的な関係が必要ならば付き合いを大切にして行く。		

Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

１　一人ひとりの把握

33	○　思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている.困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの主訴を大事にし、その人らしい暮らしが継続できるように、検討しながら努力している。		
34	○　これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活暦の違いや、好む・好まないも十人十色、サービス利用に対しても全員が同じではないが、馴染みの暮らしに近づけるように努力している。		
35	○　暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の言動・心身状態などを、個人ケースに細かく書きいれる。職員の交代時には、申し送りなどで把握できるように努めている。		

２　本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○　チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題の抽出・本人・ご家族・職員での話し合いにより本人・ご家族の意見を反映させた介護計画を作成している。		
37	○　現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し前に変化が生じれば、ご家族も含めサービス担当者会議にて検討し、新たな計画を作成している。		
38	○　個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに事細かく本人のその時の状況・発した言葉など記録し、職員全員に読んでもらっている。又、個人ケースを参考にしながら、介護計画にも生かしている。		

３　多機能性を活かした柔軟な支援

39	○　事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の好みに合わせた食事・本人と家族との食事作り・職員が作った食事を家族と一緒に食べて頂いたりしている。		

４　本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	年２回の消防訓練に利用者の現況・部屋の位置などのファイルを作成、災害に備えている。また、施設の行事にはボランテイアに来て頂き楽しんでいる。		

（ ⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
41	○　他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	サービス利用には至っていない。	○	同区内の介護支援専門員の研修・リーダー研修で知り合った人達に色々なサービスの内容がある事を聞き、これから取り組んで行こうとしている。
42	○　地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などで、意見・助言を頂き参考にしている。地域包括内のあんしんサポートを利用して連絡を取り合い、協働している。		
43	○　かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の意見を尊重し、あらかじめかかりつけ医に相談し、治療方針を本人・ご家族に説明、同意を得る。		
44	○　認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と心療内科との連携にて、必要に応じ受診、職員が受診に同行する。		
45	○　看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月６回の訪問看護・利用者の健康状態を管理・把握し、変化があれば２４時間、電話で連絡・相談、指示を仰ぎ対応しながら支援している。		
46	○　早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院との連携、入院の場合は主治医に話を聞き、早期退院に努める。退院時には主治医の意見書・看護サマリーを頂き、かかりつけ医と相談、今後の治療方針を相談していく。		
47	○　重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、かかりつけ医が家族に病状・今後の医療方針をどのようにしていくかを話し合う。家族にはあらかじめ、延命の有無を確かめているが、再度確かめる。		
48	○　重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	本人との関わりを持っている人達と連携しながら、利用者が１日でも長くホームで暮らしていけるように、生活にハリをもって貰い「できること」をできるまでして頂くためにチームで支えていきたい。		
49	○　住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、、住み替えの予定はないが自宅や他の施設などに移り住む事なれば、少しでもダメージのないようにしていきたい。		

（ ⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）

Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

１　その人らしい暮らしの支援

（１）一人ひとりの尊重

50	○　プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	長く築きあげた生活暦で、本人の持つ誇りを傷つけるような呼び方はしない。職員同士ではイニシャルで呼んでいる。		
51	○　利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	本人の思いや希望する事をさりげなく聞き出し、ゆっくりと説明し、本人が決定できるように支援している。		
52	○　日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調・気分など観察し、一人ひとりがゆっくりと、落ち着いた生活が出来るように支援する事を心がけている。		

（２）その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○　身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った洋服をセットして声かけし、気の付く所へ置いておく。理・美容へは本人が希望する店に、家族・職員が同行している。		
54	○　食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月行事・誕生日などは、利用者の希望を取り入れて一緒に準備をする。後片付けなどは、各自がトレーにて持ち運びをし、片付けやすくしている。		
55	○　本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	本人が望み、医療的な面で問題がなければ、その時の状況に合わせて楽しめるように支援している。		
56	○　気持よい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして,気持ちよく排泄できるよう支援している	個人ケースにより排泄間隔を把握、さりげない促しや、誘導により失敗を減らし気持ち良く過ごせるように努めている。		
57	○　入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時には健康状態・入浴の有無を確かめ、気持ち良く入浴出来るように支援している。		
58	○　安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	使用していた寝具を持ってきて頂き、安心して眠れるようにしている、又、好きな時にソファーにてお茶など飲みながら休息して頂く。		

（３）その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○　役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最初はゆっくりと、職員と一緒に初め、その人に合った役割を見出す、又、カラオケやゲームなどで楽しみを作り、気晴らしに努めている。		

（ ⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○　お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	外食や買い物の時などは、事前にお金を持たせて各自で払い、お釣りを貰って頂くようにしている。		
61	○　日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物に出かけたり、車がいいと希望すれば、車で外出したりしている。		
62	○　普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族が経営する喫茶店などに利用者の方と出かけ、お茶などを飲みながら楽しく会話している。		
63	○　電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	暑中見舞い・年賀状などを書いて頂き、希望すれば電話連絡が出来るように支援している。		
64	○　家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	馴染みの訪問があれば、職員全員が気持ち良く出迎え、お茶でもてなす。		

（４）安心と安全を支える支援

65	○　身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員全員が理解し正しいケアに取り組んでいる。		
66	○　鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害を理解はしているが、車の往来が激しく、突然外へ飛び出し危険を及ぼす可能性がある為、玄関のみ施錠している。		
67	○　利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	職員同士で話す時は本人のいない所で、イニシヤルを使う。又、必ずフロアーには職員が待機している。		
68	○　注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒液・プラスチック手袋などは利用者の目の届かない所に置く。歩行・移動には、障害のないように環境整備に気をつけている。		
69	○　事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修・救命講習などで知り得た情報にて各自が事故防止に努めている。		
70	○　急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署員にホームへ来て頂き、救命講習を職員全員が受講した。		

（ ⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝⁝ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
71	○　災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で折にふれ、地域の方に説明し、協力を得られるように働きかけている。		
72	○　リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	本人の希望を大事にし、そのために起こりえるリスクをご家族に説明・納得して頂き、なるべく本人の希望に添えるように努めている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援				
73	○　体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の観察や往診時・訪問看護の申し送りを蜜に行い、情報を共有する。異変・急変の時は職員同士が連絡し合い、速やかに対応出来るようにしている。		
74	○　服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	利用者個人の薬のファイルをもらい確認している。新しく処方される薬についても説明して頂く。日頃の観察で薬の見直しにも努めている。		
75	○　便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢になると便秘になりやすく、身体にも影響が大きいため、予防として、散歩・ラジオ体操などで体を動かしてもらい、繊維質の多い食べ物を摂取・水分補給にと努めている。		
76	○　口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	毎食後、本人に促し・誘導する。週１回の歯科検診にて口腔状態を診てもら、指導をうけている。		
77	○　栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・カロリー・水分量の記録をチェックしながら、その時の状態により、補食・おやつなど考えながら支援している。		
78	○　感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している （インフルエンザ疥癬,肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	予防接種の実施・研修などに参加し、毎日、塩素系の洗剤を薄めて拭き掃除している。		
79	○　食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した台所用品は熱湯消毒・塩素系の洗剤で消毒、食材は使いきりにし残り物は使用しない。		
２　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
（１）居心地のよい環境づくり				
80	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設に出入りしやすいように玄関の中にチャイムを設置、外部から見られること無く出入りでき、駐車場・駐輪場を設け、近隣には迷惑がかからないないようにしている。		

（ ⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘⁘ 部分は外部評価との共通項目）

取り組んでいきたい項目

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
81	○　居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下は明るくし、フロアーには利用者が、ぬり絵をした行事ごとのカレンダーを飾り、季節を分かりやすくしている。		
82	○　共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で、５並べ・トランプ・カラオケなどで思い思いの生活を過ごされている。独りになれる居場所も工夫している。		
83	○　居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族と相談しながら、使い慣れた家財道具・好みのものを持って来て頂いている。		
84	○　換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	１日に何度かドアを全開して換気し、温度調節も利用者の状況に応じてこまめにしている。		

（２）本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○　身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	壁・トイレには手すりを設置。車椅子・歩行器などでスムーズに移動できるように工夫している。		
86	○　わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の持っている、分かる力を理解・活かし、混乱や失敗を防ぐ環境を作りながら、ゆっくりと自立ができるように工夫している。		
87	○　建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りにはテラス・花壇があり、季節ごとの花を植えては水まきで、花の成長を観察する。テラスではお茶・会席弁当・焼肉などで楽しんでいる。		

Ⅴ　サービスの成果に関する項目			
項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①　ほぼすべての利用者の ②　利用者の２／３くらいの ③　利用者の１／３くらいの ④　ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①　毎日ある ②　数日に１回程度ある ③　たまにある ④　ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができている。	○	①　ほぼすべての家族と ②　家族の２／３くらいと ③　家族の１／３くらいと ④　ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	①　ほぼ毎日のように ②　数日に１回程度 ③　たまに ④　ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①　大いに増えている ②　少しづつ増えている ③　あまり増えていない ④　全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①　ほぼ全ての職員が ②　職員の２／３くらいが ③　職員の１／３くらいが ④　ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	①　ほぼ全ての利用者が ②　利用者の２／３くらいが ③　利用者の１／３くらいが ④　ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	①　ほぼ全ての家族が ②　家族等の２／３くらいが ③　家族等の１／３くらいが ④　ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい）

職員同士で、利用者の情報の共有に力を入れて取り組んでいる。